松崎町道の駅パーク構想基本計画 概要版 平成 30 年 2 月

はじめに

(1)背景•目的

松崎町は、豊かな自然を背景に観光地として発展し てきましたが、近年では、観光交流客数が年々減少し ています。このため、本町では急務とされる「多様化 する観光ニーズに応えた環境づくり」への寄与を目的

に、町内への誘客を目指すゲート 🛌 ウェイとして「道の駅パーク」を 整備することになりました。新た な観光サービスを提供すること で「松崎」のネームバリュー向 上・にぎわい創出を図り、交流人 口の拡大や地域の活性化に繋げ ます。





■道の駅パークとは

本計画で掲げる「道の駅パーク」とは、一般的な道 の駅と、公園が一体的に機能する施設として、独自に 表記するものです。

「道の駅」とは?

道路利用者への安全で快適 な道路交通環境の提供や地 域の振興に寄与する場所。

備わる機能

休憩機能

情報発信機能

地域連携機能 など

「パーク(公園)」とは?

公共的なオープンスペース。 休息やレクリエーション活動 を行う場所。

備わる機能

環境衛生的機能(大気汚染防止 等)、防災機能(災害時の避難地、延 焼防止等)、心理的安定機能など

「道の駅パーク」とは?

道の駅とその周辺一帯を、その場所"ならでは"の性質や特徴を活かしながら「道の駅」の機能と「パーク」 の機能をあわせて総合的に活用する場所。

「道の駅パーク」 のイメージ

道の駅

周辺一帯 那賀川 • 旧依田邸

■道の駅パークの構成要素(計画地)

~三聖人でつながる三聖苑・旧依田邸・那賀川~

道の駅パークは、道の駅花の三聖苑伊豆松崎・旧依 田邸・二級河川那賀川を構成要素(計画地)とします。

現在、道の駅「花の三聖苑伊豆松崎」には「三聖会 堂」と称する記念館があり、道の駅の名前の由来とも なった地元の3人の聖人、「土屋三余」、「依田佐二平」、 「依田勉三」の顕彰をはじめ、松崎の歴史と文化が紹 介されています。

「土屋三余」は幕末の漢学者で江戸で勝海舟らと学 んだ後、地元で私塾「三余塾」を開き後進の育成に励 みました。土屋三余を叔父にもつ「依田佐二平」「依 田勉三」は兄弟であり、共に三余塾で学びました。後 に依田佐二平は郷土で蚕糸業を興し実業家・政治家と して活躍し、依田勉三は、兄依田佐二平の支援を受け 十勝平野・帯広の開拓に尽力し開拓の祖と称されまし た。「佐二平」「勉三」兄弟の生家が旧依田邸です。





道の駅花の三聖苑

那賀川沿い

旧依田邸

(2)計画のフロー

本計画策定の流れの大枠は次の通りです。

分析評価

松崎町及び計画地を調査し、見えた資源の現状を把 握し、道の駅パークでは何を行う必要があるかを整 理します。

整備基本方針の検討

松崎町及び計画地の調査を踏まえ、道の駅パークを 活用していくための基本的な考え方を整理します。

整備計画案の作成

方針をもとに、整備における基本的な計画案として、次のことについて検討します。 ・施設規模・施設配置等の検討

- アクセス動線の検討
- 大規模災害時における機能の検討
- 概算事業費の算出、整備年次の概略検討 活用できる補助メニューの検討
- 管理運営の概略検討
- ・ 今後の課題について整理

1 分析評価

計画地の状況を調査した結果による、必要と考えられる10の方策を整理します。

方策①那賀川・旧依田邸など周辺地域資源の魅力活用

• 親水性が高く四季が感じられる那賀川や、明治 時代から生糸産業の歴史を誇る旧依田邸など周 辺地域資源の魅力を活かす。

方策②地域の風土や歴史を伝承

• 依田勉三の北海道での活躍をはじめとする三聖人の活躍や、地域の"人を育む"風土や歴史を 伝承する。

方策③地域の生活をアシスト

• 集落に隣接しバス路線のある主要地方道下田松 崎線(県道 15 号)沿いに位置する道の駅におい て、恵まれた立地環境を活かし、人口減少や少 子高齢化でコミュニティの衰退が懸念される地 域の生活をアシストする。

方策4町内情報機能の充実、道の駅の配置改善

道の駅において、町内の店舗や宿泊施設等の情報機能を充実させるとともに、駐車場や施設配置の分かりづらさを改善し、増加している外国人観光客や伊豆縦貫自動車道を利用する観光客を町内へ導くための玄関口とする。

方策⑤道の駅と旧依田邸をつなぐ動線の魅力向上

これまでつながりの薄かった道の駅と旧依田邸をつなぐ動線を分かりやすく安全で魅力あるものにし、道の駅に訪れた人を旧依田邸に誘う。

方策⑥旧依田邸の施設の利用性を高める

• 旧依田邸における施設老朽化、新旧施設の混在、 駐車場不足等の問題を解消し、人々が来邸しや すい場とする。

方策⑦変化のある体験や学習コンテンツ提供

松崎町の自然、文化、歴史などを活かしたここにしかなく、変化のある体験や学習コンテンツを提供する拠点とし、観光客等を惹き付け、地域住民の生きがいを創出・リピーター確保につなげる。

方策⑧観光客や地域交通弱者の交通アシスト

 公共交通機関との連携による新たな交通連携や 交通手段の充実を図り、観光客や町内交通弱者 の交通をアシストし町内へ導く。

方策9地場産品販売の場創出

地場産品販売の場を創出し、多種産業のコラボ や新サービスの開発などにより消費拡大を目指 し、生産意欲の向上を図る。

方策⑩地場産品や伝統技術の魅力を広める

体験や学習などのコンテンツを通して松崎町が 誇る桜葉などの地場産品やなまこ壁など伝統技 術の魅力を広め、後継者不足や若年層の町外流 出による地場産業衰退を抑制する。

2 整備基本方針の検討

(3)整備コンセプト

道の駅パークには、松崎町へのゲートウェイ機能が望まれていることから、町の象徴でもある「なまこ壁」のように、自然・歴史・文化に関する情報をクロス(交わる・交流)させることで、町に人を呼び込む情報の深化を図り道の駅から発信していきます。

分析評価で見えた 10 の方策をもとに、道の駅・旧依田邸を含む周辺一帯を観光・文化交流拠点として利活用し、町の活性化につなげていくための"整備コンセプト"を以下のとおり定めます。

分析評価で見えた 10 の方策

整備コンセプト

地域住民×観光客

道の駅及び旧依田邸を観光・文化交流拠点として地域住民の生活及び観光客が集い、賑わいを 創出させ、地域活性化を担う場とします。

食×農林水産物

地場産品の販売やそれらを使った料理の提供や地域の農林水産業も発展させます。

歷史×体験

開拓姉妹都市の北海道帯広市と関係のある「旧依田邸」や、松崎町でしか味わえない、見られない場所等を多くの人に見て、感じて、味わえる場とします。

(4)整備方針

整備コンセプトをもとに、各エリアの整備方針として次の方針を定めました。



道の駅エリア

- ・魅力ある周辺資源の活用
- ・道の駅の機能向上や、地域住民の生活及び 観光客の交流の場の創出

那賀川沿いエリア

• 周遊環境の整備

旧依田邸エリア

- ・依田家の歴史や帯広とのつながり、松崎町の自然、文化、歴史を感じられる場の創出
- ・観光、文化交流拠点としての整備活用

(5) エリア毎の整備概要

1)整備概要整理表

整備コンセプトにおける10の 方策を5つの機能に区分し、それ ら機能が道の駅パークの整備に より図られる体系を、整備概要表 に示しました。



	概引	要整理表					•	
エリア 区分		整備方針	推方針 整備概要		機能区分		整備項目	
		魅力ある周辺資	A-1 ∄	W質川·旧依田邸へ誘導する、わかりやすい動線の確保	施設利便	更性向上	アプローチ園路	
	Α	源の活用	A-2	からいいいは田郎へ配合する。イングですい動脈の唯体 地域の自然・歴史文化資源である那賀川、旧依田邸などのPR、案	資源活用· M	11. 工歷史伝承	案内板	
				型 製道からのスムーズな進入出を考慮した出入り口の改修	施設利便	更性向上	出入り口	
			B-2 +	ナイクリング・ツーリングの拠点、中継点としてのサービス提供	体験・	· 交流	飲食・休憩スペース(天城山房)	
			B-3 #	也場の農産物・惣菜等加工品販売スペースの確保	地場やゆかりのは	也の食・技術伝承	販売スペース (物産販売所 等)	
道の			B-4	"気軽/短時間/テイクアウト/ここにしかない"を考慮した飲 食・販売メニューの提供	地場やゆかりの対	也の食・技術伝承	飲食・休憩スペース(天城山房)	
駅		道の駅の機能向		立ち寄りやすいオープンな休憩スペースの整備	体験・	• 交流	飲食・休憩スペース(天城山房)	
エリ	В	上や、地域住民の生活及び観光		公崎町や伊豆西海岸地域の情報発信及び伊豆地域の他の道の駅と連 集した情報発信	体験・	交流	情報スペース(三聖会堂)	
ア		客の交流の場の	B-7 9	N国人観光客への案内機能の強化	体験・	• 交流	情報スペース(三聖会堂)	
				三聖人に関する資料を集約し、"人を育てる"風土が感じられる展示を行う	資源活用・原	11. 土歴史伝承	展示スペース(大沢学舎)	
			B-9 i	首の駅利便性向上のための動線及び駐車場整備	施設利係	更性向上	駐車場、園路	
			B-10 /	バス待ち機能の強化(路線バス)	地域生活	アシスト	バス停車帯	
			B-11 🖇	災害時の救助隊活動拠点となる広場、施設の確保	地域生活	アシスト	イベント広場	
				既設作業棟を活用した地域食文化を伝承する体験	地場やゆかりのは	也の食・技術伝承	体験スペース(作業棟)	
∄ß		周遊環境の整備	C-1 %	道の駅と旧依田邸やその周辺地域を周遊する道路環境の整備(県道 易ヶ野松崎線他)	資源活用 · 風土 歴史伝承	施設利便性向上	桜並木通り (路面)	
工賀リ川	_		C-2 †	ナイン施設の設置(案内板/道標)	資源活用 · 風土 歴史伝承	施設利便性向上	桜並木通り (路面)	
ア沿			С-3 Я	景明施設の設置	資源活用・風土 歴史伝承	施設利便性向上	桜並木通り(余剰地)	
()			C-4 t	木憩施設の設置	資源活用・風土 歴史伝承	施設利便性向上	桜並木通り(余剰地)	
		依田家の歴史や	D-1 1	比海道帯広を感じられる商品等を楽しめるCafé の整備	地場やゆかりの対	也の食・技術伝承	Café	
		帯広と松崎のつ			公崎と帯広の食材を使ったレストランなどの整備(道の駅との差別 た)	地場やゆかりの対	也の食・技術伝承	レストラン
	D	の自然・文化・ 歴史を感じられ		水田家のこれまでの功績や、依田勉三の北海道での活躍がわかる資 科の展示	資源活用・原	1.土歴史伝承	資料展示	
依		る場の創出	D-4 E	展示・イベント等に利用する場の整備	体験•交流	地場やゆかりの地の食・技術伝承	展示・イベントスペース	
B			E-1 3	文化財施設の保護	施設利便	更性向上	資料展示/ロビー	
邸工			E-2 5	注車場整備	施設利係	更性向上	駐車場	
IJ		観光・文化交流	E-3 £	運園整備	資源活用・原	0.土歴史伝承	庭園	
ア	Е	拠点としての整	E-4 邡	を設内動線の見直し整備	施設利便	更性向上	メイン通路	
		備活用	E-5	トイレの整備	施設利便	更性向上	トイレ	
			E-6 ₹	利用しない施設の撤去	施設利便		不要施設	
			E-7 1	立ち寄り温泉機能移転及び休憩施設の整備	施設利便性 体験・	交流が域の生活アシスト	温泉施設、休憩施設	

2)整備項目·整備概要

める

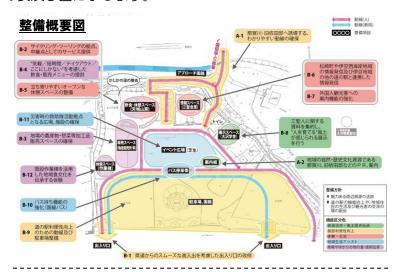
整備項目に対する整備内容、今後の利用用途を以下の表及び図に示します。

1 道の駅エリア

創出

整備項目 現在利用 実際の整備 今後利用 駐車場、風格、 花時計により2か 花時計を撤去し、1つ 駐車場の一体利用を	田冷
駐車場、園路、 花時計により2か 花時計を撤去し、1つ 駐車場の一体利用を	団能にし、立
出入り口 所に分断され入口 の駐車場として整備 寄り易さ・分かり易	
がわかりづらい。(東側路面等は既存の る。バスにおいては	
がわかりつらい。 (宋岡崎田寺は成任の) る。 バスにおいてはまま)。 バス通行を考	- 一/1)週11。
虚。	
バス停車帯 - シェルター施設新設。 バスを待つスペース	として利田
飲食・休憩ス レストラン・土産 施設改修(入口、配置 軽食や休憩のみに利	
ペース(天城山 物販売に利用され 等) プンスペースとして	
房) インス イン	
ウトも可能なメニュ	ーを検討.
かじかの湯温泉施設として、維持費がかかるため撤温泉機能としては、	
松崎町民と観光客 去する。撤去時期の検 泉施設へ移転。	10 12 10 12 17 12
が約半数の割合で一討が必要。	
使用。	
情報スペース 三聖人や松崎町な 必要に応じてリノベー 地域観光情報などを	提供。
(三聖会堂) どに関する展示が ション等を行いなが 常駐スタッフは配置	せず、主にパ
ある。 ら、情報を収集し、展 ネル、パンフレット	、電子機器等
示を整える。での展示を検討。	
展示スペース 松崎町の歴史や道 必要に応じてリノベー 三聖人や、松崎町の)歴史に関する
(大沢学舎) の駅へ投句された ション等を行いなが 展示を行う。(現在:	E聖会堂·大沢
俳句が展示されて ら、現在三聖会堂及び 学舎にある資料を集	
いる。2階建て。 大沢学舎に展示されて 常駐スタッフは配置	
いる展示・展示方法を ネル、パンフレット	、電子機器等
検討。での展示を検討。	
作業スペース 地域の女性グルー 現在利用グループの	
(作業棟) プがコンニャク作 一 民や観光客も体験可	
りなどに利用 施設としての利用を	
販売スペース 新たに施設を建築。時 農産物等直売、地場	
(物産販売所 期により農産物生産の 販売、町内商店のア	
等) ばらつきがあるため可 プとしての活用を図 ************************************	
動間仕切り等でフレキ 縮小したスペースは	
シブルな空間構成を考 体験や会議等、多目	がに利用。
虚。 イベント広場 植栽、ベンチ、オ 不要植栽の撤去等を行 バス待ち機能、災害	呼中の地中形法
14人下広場	
置。各種イベント る。今後も各種イベ	
道。 台種 1 ベンド	ントなこに利
アプローチ関係 舗装を整え、那賀川沿りや旧依田	邸へ誘導する
一 いへ続く関路を整備す 関路として利用。	150 AB-C/0, AB-C
る。	
案内板	1邸へ人々を誘
駅パーク全体において 導する案内として利	
ー 利用しやすく統一され たサイン計画を検討す	
一 利用しやすく統一され	
一 利用しやすく統一されたサイン計画を検討す	うことができ
一 利用しやすく統一され たサイン計画を検討す る。	iうことができ
利用しやすく統一されたサイン計画を検討する。すイクルビント ー ジェルター施設を新 自転車の整備等を行める。	うことができ

※今後も現在の利用と同様に活用する施設等 トイレ、駐車場(東側のみ)、トイレ前の電子情報案内

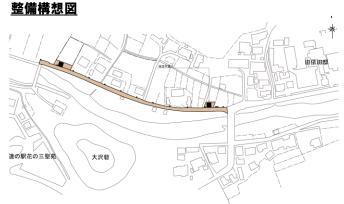




② 那賀川沿いエリア

整備項目	現在利用	実際の整備	今後利用用途
桜並木通り(路	地域住民の生活道路として利	照明施設、案内板等サイン施	道の駅エリアと旧依田邸エリアを繋
面•余剰地)	用。県道側はバスも通行して	設、休憩施設の設置を検討。	ぐ路線として、また、地域住民の生
	いる。		活を支える路線として活用。





③ 旧依田邸エリア

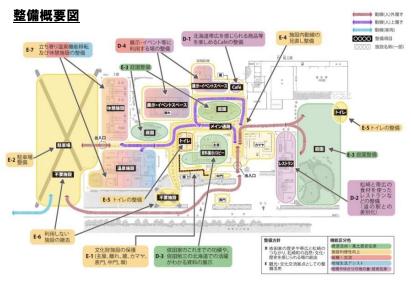
整備項目	現在利用	実際の整備	今後利用用途
駐車場		不要施設を撤去。 駐車桝を確保す る。	旧依田邸の駐車場 として利用。温泉 施設へ直接入れる よう検討。
温泉施設	一般には開放していない。施設はホテル運営当時の物が残っている。	温泉利用に必要な施設の修繕。フロント、下足室など必要施設の整備。	現在道の駅かじか の湯にて利用され ている機能を移 転。地域任する立 大等が利温泉として 利用。
休憩施設	計8部屋2階建て の宿泊施設(絹 屋)。	修繕を検討。	温泉施設利用者の 休憩や待機スペー ス等として利用。
展示・イベントス ペース 【離れ】	建物展示を行っている。	修繕、文化財施設 の保護。	展示やイベントな どを行うことがで きる、テナント貸 しスペースとして 利用。
ベース[蔵]	間貸等を行っている。	の保護。	現在利用に引き続き、展示やイベントなどを行機能を依 ができる。 デナント 貸しスペースとして利用。
Café	カフェとしての機 能を有している。	修繕、文化財施設 の保護。	カフェとして利 用。北海道帯広を 感じられるメ ニュー等も検討。
資料展示/ロ ビー【玄関】	ロビーとして利 用。靴をスリッパ に履き替える。	土間を撤去する。 展示内容を検討する。文化財施設を 保護。(施設内動 線の見直し整備を 兼ねる)	ロビーとして利用。旧依田邸に入り込める展示を検討。
資料展示/ロ ビー【資料室】	蚕糸業や依田家の 展示。	展示内容検討。文 化財施設の保護。	蚕糸業や依田家の 展示。また、土産 物販売等も検討。
資料展示/ロ ビー【橘の間・次 の間】	ある。	化財施設の保護。	依田家、依田勉三 や帯広、依田佐二 平や蚕糸業や富岡 製糸場、文化財の 詳細やその他資料 を展示。
レストラン【茶 屋、水車小屋】	茶屋、水車小屋と して開放するなど して利用。	空調設備、配膳に 利用する廊下、近 接した厨房を整 備。レストランの メニューや運営の 検討。	松崎や帯広の食材 を使ったレストラ ンとして利用。道 の駅の軽食メ ニューとの差別化 を図る。
不要施設	—(空き家となっ ている)	駐車場整備を検討 している場所にあ る不要施設を撤去 する。	_

※その他

文化財施設 | 文化財施設の保護を行う。(カマヤ(今後も事務室利用)、表門、中門、塀)

庭園 整備する。

トイレ トイレの整備(新設・バリアフリー化)を行う。



整備構想図



整備計画案の作成

(1) 概算事業費の算出

平成 30~32年度における概算事業費の算出及び 供用までの概略事業スケジュールを次表に示します。 ただし、関係機関との協議や調整の状況などにより変 動する可能性があります。

■概算事業費の算出

	整	整備項目		内容	概算工	事費(千円)	
	敷	駐車場、歩道、	施設撤去	花時計、その他舗装等			
	地		広場等の舗装	舗装整備	アスファルト舗装等	70,000	
渞			その他	植栽、排水等			
道の駅エリア		物 産 販 売 所 等	新築	鉄骨造平屋建て施設 新築		140,000	
エリ	建	バス停留帯	設置	木製シェルター設置		140,000	
ア	物		サイクルピッ ト	設置	木製シェルター設置	70,000	1
		天城山房	改修	改修			
		かじかの湯	施設撤去				
	敷地	駐車場	舗装整備	砕石舗装等	10,000		
ΙВ		不要施設	施設撤去		10,000		
依田	建物		温泉施設	改修	耐震、壁床合板張り替 え、給水施設等	50,000	100,000
田邸エリア				血水池改	新築	フロント、下足室等付 帯施設	50,000
ア		レストラン	改修	茶屋·水車小屋、土間 復元等	50,000		
			新築	厨房、トイレ等			

(2)整備年次概略スケジュール

本計画の整備における概略スケジュールを示します。かじかの湯など現在日常的に利用されている施設については、機能が失われる期間が生じないようにします。

■概略スケジュール

	整備項目]	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度~
	駐車場、 歩道、	測量・設計	\longleftrightarrow		
	広場等舗装	整備(舗装)		\longleftrightarrow	
道	かじかの湯	整備(不要 建物撤去)		*	
の駅	物産販売所 等	設計	\longleftrightarrow		
エリア	(350 m²)	整備(新築)		←	
	バス停留帯	設置		\longleftrightarrow	
	サイクルピット	設置		\longleftrightarrow	
	天城山房	整備(改修)		\leftarrow	
	駐車場	整備(不要 建物撤去)	\longleftrightarrow		
臣	- SI - 200	整備(舗装)	\longleftrightarrow		
依田邸	温泉施設	測量・設計	\longleftrightarrow		
邸エリア		整備(改修)		\longleftrightarrow	
ア	レストラン	測量・設計		\longleftrightarrow	
		整備(改修)			\longleftrightarrow
	社 会 情	勢	伊豆縦貫自動車道天城北大路開通(大場) IC(仮称)まで)	静岡DC、 ラグビーW C	東京オリン ピック・ パ ラ リ ン ピック

(3)活用できる補助メニューの検討

現時点での計画内容から期待される補助メニューは、社会資本総合交付金を中心とした導入が基本と考えられます。

■期待される補助メニュー(案)

747	■物付Cイレ②情別ケーユ ̄(未/						
支援制度 施設の配置		社会資本整 備総合交付 金	農山漁村振興 交付金	地方創生推 進交付金	観光施設整備事 業費補助金		
道の駅エリアの	車物、所・ースの 場、産飲 飲憩、一 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	道路 都市再生 広域連携	受入機能強化 施設(農林水 産物処理教 文化施設,教 支化施設,知 で で で で で で で で で で で の の の の の の の り の り	・横展開タイプ・隘路打開タイプ	観光施設整備事業 ・駐車場 ・休憩所 ・観光案内所、観光案内設備		
20 .	路整備、 内板等の 備	都市再生広域連携	-		観光施設整備事業 ・車道及び橋 ・歩道及び自転車道 ・振護等		
旧依田邸エリア	化 は は は は は は は は は は は に し れ こ う は が れ に れ し れ う し れ う し れ し れ し も し も し も し も し も は し も し も は し も に も し も に も し も に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る に る る に る る に る に る 。 に る に る に る 。 。 る 。 。 。 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	都市再生 広域連携	都村促域医統施附衛 神総施化 地域医院 地域	横展開タイプ・隘路打開タイプ	観光施設整備事業 ・駐車場 ・休憩所 ・展示施設 ・観光案内所、 観光案内設備		

(4)管理運営

1) 基本的な考え

道の駅等の公設施設において用いられている一般的な管理・運営方法として、自治体直営方式、第三セクター方式、指定管理者方式、PFI方式などがあります。今後適切な方法を選定していくために、管理運営における基本的な考えを整理しました。

道の駅及び旧依田邸の管理運営については、施設の機能に応じて民間を含む事業主体を選定し、複合的な管理・運営とすることが望ましいです。

飲食提供等直接的なサービスを行う収益部分、駐車場やトイレなど直接的なサービスを行わない非収益部分の区分において、道の駅エリア及び旧依田邸エリアに関する基本的な考え方を以下に整理します。

■道の駅エリア

収益・非収益両部分において一体的な運営を図ることが望ましいです。

区分	適用範囲	必要なこと
	•全体	•一体的な管理・運営
収益	•販売スペース (農産物・土産 物等) •飲食(·休憩)ス ペース	・販売における民間の知恵とアイデア 導入(ここでのサービスが町全体の集 客、出店者の収益に直結)・提供するサービスには、町内の農産 物生産者、飲食店、体験アクティビ ティー関係者などが関わり、町全体 の活性化につなげていく
非収益	(飲食・) 休憩スペース情報スペース(観光情報)展示スペース駐車場・トイレ	・収益部分と一体的な管理・町へ入り込ませるアピール・地域交通の拠点として路線バスや将来的な自動運転車両のシェアリングサービス等を提供ノウハウ

■旧依田邸エリア

レストラン、温泉施設、文化財建物による複合的な

管理・運営を視野に入れることが望ましいです。

区分	適用範囲	必要なこと
	•全体	•複合的な管理·運営 歴史·文化的価値の維持·保全、PR
収益	温泉施設レストランCaféレンタルスペース	・有料集客施設のため民間管理運営が望ましい・料金とサービスのバランス、情報発信、リピーターの確保などノウハウ導入・関連地域との繋がり
非収益	•文化財建物 •庭園 等	•歴史・文化的価値を理解し、実行で きる管理・運営

2) 管理・運営に関わる今後の取り組み

① 地域住民の関わりの検討

観光客の為の道の駅では、継続性や発展性が望めません。地域住民が利用し愛着を持つことで、自発的に道の駅をより良くしようとする動きに繋がります。

道の駅パークを育てていくには地域住民の力が必要不可欠となります。地域住民自身が地域ならではのコンテンツを訪れる人に提供するなど、地域住民主体での取り組みにより知恵・アイデア、工夫で"ならでは"を創出、PRしていくことが望ましいです。

地域住民主体での取り組みに向け、合意形成、組織 化等を円滑に進めるため、外部コーディネータを活用 するなどして"地域づくり"を行い、誘客コンテンツ を創造していくことも有効的です。

地域住民主体の"地域づくり"

地域住民自身が、地域ならで はのコンテンツを創造・提供 交流人口 増加による 地域活性化

外部コーディネータ活用

- 取り組みに向けた合意形成、組織 化等の円滑化

地域づくりによる地域活性化イメージ

■概略計画案:地域住民ワークショップの開催

- 地域の方を集めた組織(様々な業種)を形成し、静岡県内の大学生を交えたワークショップを数回開催
- 最終的に、ありたい姿から道の駅を活用した具体的な案まで落とし込み、事業計画を作成

目的① 松崎の良さを発見する(強み、他地域にない強みとは?)

目的② 松崎の良さをどのようにして、誰に伝えたいのかを可視化

目的③ 道の駅パークを通じてどうなりたいか(ありたい姿)を作り町民と共有

■概略スケジュール(月1程度、半年間)

1ヶ月目 地元説明会開催

組織形成=先進地視察(参加者のモチベーションを上げる)

2ヶ月目 第1回ワークジョップ開催

3ヶ月目 第2回ワークショップ開催

4ヶ月目 第3回ワークショップ開催

5ヶ月目 有識者を招いた現地視察

6ヶ月目 第4回ワークショップ開催→方向性決定

② サウンディング調査の実施

民間活力の導入を視野に入れた管理運営にあたっては、民間事業者を公募する条件を、市場と乖離したものとなることを抑制し、事業者にとっての魅力があり、参画しやすいものとする検討が必要です。

このため、民間事業者から広く意見や提案を求め、 事業者公募前に対話を通じて市場性などを検討する サウンディング調査を実施することが望ましいです。





検討開始

活用案作成

公募要項作成

事業者公募実

松崎町

サウンディング調査の流れ

大規模災害時における機能について

道の駅「花の三聖苑伊豆松崎」は、「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画(静岡県/H28 策定)」及び「東海地震応急対策活動要領に基づく静岡県広域受援計画(静岡県/H21 修正)」において、警察、消防、自衛隊から成る広域応援部隊等の救助活動拠点に位置づけられています。

救助活動拠点とは、「部隊の指揮、宿営、資機材集積、燃料供給等の機能」を有するものです。道の駅パークの整備により救助活動拠点として選出された要件・条件を崩すことなく、今後も大規模災害時における活動拠点としての機能を保持する必要があります。

今後の課題

整備における今後の課題を以下に示します。

那賀川沿いの整備

本計画では、堤防道路や河川の整備は着手しないこととしているが、道の駅パークとして一体的に活用するためには、那賀川沿いは道の駅エリアと旧依田邸エリアを結ぶ重要な路線となることから、将来的な整備を考慮して管理者と現実的な堤防利用等について協議を進め、保存・活用に関して検討していく必要がある。

花時計

- 道の駅エリアでは、利便性や安全面を考慮した駐車場配置を検討した結果、花時計の撤去を計画している。
- 長年親しまれてきた施設であることや、四季折々の花風景を管理してきた人々の功労も考慮し、撤去後は他施設への移設を含めて次年度以降検討することが望ましい。
- 移設箇所や活用方法において、必要に応じ専門家からアドバイスを受け検討することが望ましい。

他の地域との交流・情報発信【富岡製糸場】

- 他の地域との交流として、北海道帯広市や長野県 松本市安曇地区とは幅広い交流が盛んである。
- 依田佐二平及び蚕糸業とゆかりがあり世界遺産 に登録された富岡製糸場(群馬県富岡市)とも積 極的な交流を図ることで、より広域な範囲への松 崎町の情報発信に繋げることが望ましい。

公共交通

- 町民は自家用車利用者が多く、公共交通に対する 意見はあまり出ないが、少子高齢化が進む松崎町 において将来を考慮した公共交通の利便性向上 が重要な課題となる。
- 海外観光客をはじめとする来訪者にとって公共 交通の充実も誘導への肝となる。それは、外国人 観光客への「旅行先で不快・不満に感じる要素」 のアンケート(※)において「交通費が高い」が最 も高く、交通への不便を感じていることからも読 み取れる。(※)平成26年度文化財の効果的な発信・活用 方策に関する調査研究事業報告書

地域産業の活性化のための地域農家等把握・協議

• 地域住民にとって、道の駅パークを"他人事"と せず"自分事"とするために、販売機能への参入 が考えられる農家・商店等との話し合いを進め、 地域住民が積極的に参画できる体制を整えるこ とが望ましい。

意見収集

道の駅パーク構想基本計画は、様々な視点を取り入 れた計画を行うために、計画策定委員会を計4回開催 し、委員の意見をうかがいながら進められました。

計画地の踏査としては、ソトモノ(松崎町外の者) 及びワカモノ(新しい感性)の意見を得るために、静 岡大学学生による事前現地踏査を行いました。

また、アイデアワークショップを行い、松崎町民・ 地域おこし協力隊・伊豆学研究会・松崎町外の大学生 や教員など様々な方が参加していただきました。グ ループになり意見を交換し、にぎわいを創出するため の幅広いアイデアを収集することができました。

道の駅パーク構想基本計画策定 委員会·



↑ワークショップ

事前現地踏査→

松崎町企画観光課

〒410-3696 静岡県賀茂郡松崎町宮内 301-1 TEL 0558-42-3964 FAX 0558-42-3183 E-mail kankou@town.matsuzaki.lg.jp